

地域脱炭素に向けた マッチングイベント

飛龍観
縁起のよい景色

特別名勝

日本三景

あまのはしだて
「天橋立」



SDGs 未来都市
みやづ

京都府 宮津市

京都府宮津市の紹介

アクセス大幅向上



【位置】 京都府北部
【面積】 約172.74km²
【人口】 15,791人 (R7.3末)
【世帯】 7,940世帯 (R7.3末)

昭和29年6月に市制施行、旧宮津町と7か村
(栗田村、吉津村、府中村、日置村、世屋村、養老
村、日ヶ谷村) が合併し「宮津市」へ。

昭和31年9月には由良村合併

市政施行 71年目

市予算規模 128億円 (R7当初一般会計)

【特徴】

☆ 北近畿有数の観光地

○ 日本三景天橋立を中心に年間320万人の
※京都市 5,352万人 (R1)

入込客、丹後国一宮元伊勢籠神社、天橋山
智恩寺、成相山成相寺、与謝蕪村、細川忠興
・ガラシャ、北前船寄港地、トリック宮津教会

☆ 美味しい食べ物 観光消費額 143億円 (R6)

○ 丹後とり貝 ※京都市12,367億円 (R1)

○ 松葉ガニ、寒ブリ

○ 岩ガキ、サワラ、クジ、ナマコ…

○ 干物、黒ちくわ

○ 丹後産ヨカガ、山の芋、みかん、オリーブ
生姜…



- 市内全域が過疎地域指定
- 森林面積が約8割
- 人口の約半数が市街地に居住
- 北部エリアの人口は約2割



宮津市街地

●産業

【観光】

北近畿の観光拠点として、年間約320万人の観光客が訪れる。

天橋立をはじめとした既存の観光資源に加え、北前船や細川忠興・ガラシャゆかりの城下町としての歴史を活かした滞在型観光への転換を進めている。

平成19年に丹後天橋立大江山国定公園に制定

【農林水産業】

農業は、水稻を主体として花き、山の芋などの地域特産物があり、水産業は、定置網漁業を中心とした沿岸漁業を行っている。

近年は、「とり貝」「ナマコ」「オリーブ」「ホンモロコ」などの生産に取り組む。

【商工業】

ニッケル製造、メリヤス生地製造などの工場や海産物加工

☆ 産業構造	(R2国調)	(H27国調)	(S50国調)
○ 1次産業	6.7%	7.9%	16.9%
○ 2次産業	18.5%	19.1%	32.2%
○ 3次産業	74.8%	72.9%	50.9%

学んでお得
日常備蓄で災害に備え 自宅待避で威力

買い物上手
小さな傷は元通り 自己修復するグッズ

NIKKEI プラス1

カラダづくり
下痢の原因はこんなにある 放置は禁物

食の履歴書
サッカー元代表 鈴木啓太さんと梅干し

くらし探検隊
天井高くし開放感演出 思考にも影響?

何でもランキング

閉鎖性水域の阿蘇海(内海)の水質浄化に地域ぐるみで取り組んでいます。

宮津湾(外海)
とり貝・ナマコの
ブランド化ができる
奇跡の海

天橋立の海拔は約70cm
気候変動で海水面が上昇すれば、世界遺産を目指すどころではなく、地域経済に壊滅的な打撃が...

残したい日本の原風景

「重要文化的景観」と呼ばれる人と自然が織りなす風土がある。
大地と暮らしが育んだ固有の水辺や草原、棚田は旅人も魅了する。
地域の人々に守られた、後世に残したい日本の原風景を専門家が選んだ。

1位
530票

宮津天橋立

(京都府宮津市) 信仰と漁村、重層的な歴史体現

「海の京都」と呼ばれる宮津。その海を約5千本の松が生い茂る3.6kmの一本の砂の道(砂州)が貫く。「いにしえから続く松並木が海を二分しているように見える」(千葉千枝子さん)。南側にある海水浴場は透明度が高く砂が白い。沖縄の海のように緑色に輝く。

南側の付け根には智恩寺があり「伝統的な門前町の様相をよく残している」(金田章裕さん)。北側の山には成相寺があり「信仰と漁村が複合化した景観は、重層的な歴史を体現している」(小塩稲之さん)。

天橋立は日本三景として有名だが、景観が美しいだけでなく歴史と文化が息づいていることが訪ねるとよくわかる。「漁業とともに暮らしを感じられる船屋群も丹後半島ならではの」(山野井友紀さん)の景観だ。

人と自然が共生する日常空間がそのまま観光資源になり、旅にいきなう。観光船には若者のグループの姿もあった。宮津市教育委員会の主任専門員、河森一浩さんは「江戸時代までは参詣の名所として栄え、明治以降は自然の美しさで人を集めた。日本の旅の変化

がその景観に残っているのが大きな特徴」と魅力を語る。同市は天橋立の世界遺産登録を目指している。

文化の香りがする景観に魅了されるように「最近では移住者も増えている」(高橋俊宏さん)という。天橋立は天界と下界を結ぶために立てたはしが海上に倒れたという神話に由来するが、龍の姿にも見えることから「飛龍観」とも呼ばれる。「2024年の辰年にぜひ訪ねたい」(長本直里子さん)。

①鈴木健撮影②<https://www.city.mi.yazu.kyoto.jp/>

日経新聞 2023.8.26

宮津市の日本の宝を守りたい!!

日本三景天橋立のあるまち宮津の未来へつなぐチャレンジ～SDGsな観光地づくり、若者から選ばれるまちづくり、資源循環の促進～

自治体名：京都府宮津市

1. 地域特性と課題及び目標

【地域特性】

- 京都府北部に位置し、「日本三景天橋立」をはじめ、豊かな自然資源や文化的景観を有する観光都市
 - 人口は、市制施行の1955年の36,200人から2024年の15,791人と、70年間で人口が半減
 - 高齢化率は2025年3月末時点で44.59%(全国29.1%:2023年10月)で、人口減少、少子高齢化が顕著
- 【課題】人口減少、産業の停滞による地域経済の低迷、少子高齢化の進行による地域力の低下、自然環境・歴史・景観の保全・継承
- 【目標】観光を核とした地域経済の好循環、移住定住促進・関係人口拡大、資源循環の促進を展開することにより、若者に選ばれる魅力あるまちづくりを目指す。

2. 全体計画の概要

①人口減少・高齢化→②地域経済縮小・雇用の減少→③若年層の都市部流出→①人口減少…というマイナススパイラルからの脱却に向け、世界から選ばれるSDGsな観光地づくりや観光を核とした地域経済の好循環の創出、若者に選ばれるまちづくりプロジェクトによる若者の移住定住の促進や関係人口の拡大、資源循環の促進により、持続可能で魅力あるまちづくりを展開する。

3. 関連するゴール



4. 2030年のあるべき姿

共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ”

2030年も活力ある宮津市を実現するためには、宮津市に住む人、宮津市に関わる人など一人ひとりが、役割や生きがいを持って活躍することで、持続可能で豊かなまちにしていける必要がある。宮津市に関わる人たち（みんな）が共に話し合い、知恵を絞り、共に力を合わせて創り上げる（共創する）ことにより実現する。

【経済】観光産業を核とした、地域経済力の高いまち

【社会】一人ひとりが地域に愛着を持ち、地域力が高いまち

【環境】環境にやさしい観光地として世界に認識されるまち

5. 自治体SDGs推進等に向けた取組

経済	社会	環境
○ 観光誘客と観光SDGsの推進 ○ 一次産業の振興と連携した地域経済の発展 ○ 創業による地域経済の活性化	○ 総合的な移住・定住対策と関係人口の拡大 ○ 次代を担う地域人財の育成と地域力の向上 ○ 子育て環境整備とシビックプライドの醸成	○ 市民・事業者・観光客等と進めるプラスチック等資源循環の促進 ○ 美しい自然環境を守る取組 ○ 天橋立の世界遺産登録に向けた取組

【みやづSDGsプラットフォームの充実】

行政や企業・団体等が持つ強みを見える化し、共創による取組を進めることで、新たな事業や雇用を創出し、地域経済の活性化や地域課題の解決につなげていく。

三側面の取組を進める上では、参画団体間の情報共有や都市部人材の知見の活用など、プラットフォームの利点を最大限活用し地域課題を解決していく。

世界から選ばれるための環境意識が高いSDGsな観光地づくりを進め、観光産業を核とした地域経済の振興を図るとともに、子育て環境の充実や移住・定住対策による若者に選ばれるまちづくりを推進する。全国の市町村初の制定となる「プラスチック等資源循環の促進等に関する条例」に基づき、市民、事業者、観光客等と連携協力して環境活動などを行うことで、持続可能なまちづくりにつなげる。

6. 他地域への展開見込(普及効果)

若者流出による人口減少や少子高齢化、それに伴う地域経済の疲弊は、全国地方都市の共通の課題である。本市の人口減少は今後も進むと見込まれ、地域経済を活性化させるには、地域の強みである観光産業を底上げし、観光消費額を伸ばすことが必要である。本市のこの取組は、同様の強みを持ちつつ、同様の課題を抱える他地域への普及展開性が高いと考える。

日本三景天橋立のあるまち 宮津市とのマッチングに向けて

自治体名：京都府宮津市

【環境面】

1.地域の抱える 環境・脱炭素に 関する課題

- 人口減少や高齢化が加速している中で、観光客はインバウンドを含め伸びており、環境負荷の少ない、脱炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の実現を具現化し、移住・定住や関係人口の構築など、持続可能で選ばれるまちづくりを進めることが大きな課題となっている。
- 環境面では、2050年の脱炭素社会の構築に向けた宣言等はしているものの、2050年ゼロカーボンに向けたロードマップが作成できていない。特別名勝 日本三景・天橋立を代表する悠久の自然資産があり、環境意識が高い一方で、具体の事業等が進捗していない。
- 市民の環境意識の高さは、約40年前から続く、ごみの5種19品目にのぼるごみの細分別収集。しかしながら観光客の増加もあり、ごみの減量化や再資源化も大きな課題となっている。

2.環境・脱炭素 と同時解決した い地域課題

- 地域経済の低迷が重要課題の一つであり、脱炭素社会、循環型社会及び自然共生社会の実現に向け、環境から経済を活性化していくことに取り組みたい。S D G s 未来都市にも選定される中、官民地域連携を推進しており、いくつかの実績も出てきているものの、行政でできることは限られており、新たなパートナーシップを組める事業者と、新たな事業を創出し、これらの地域課題を解決していきたい。観光面で発信力は一定のポテンシャルがあり、サステナブル観光の実現など、こうした面も活かしていきたい。

3.地域のありたい未来

共に創る みんなが活躍する 豊かなまち“みやづ” 持続可能で選ばれるまちへ

- 天橋立を代表とする自然資産を活かし、持続可能で選ばれるまちに向け、人と地球の環境を守り育てる次の取組を柱に、市民一人一人が環境の担い手として活躍し、名実ともに世界に発信できるまちの実現を目指しています。

①脱炭素社会の実現、②豊かな自然環境の保全、③資源循環を基調とした社会への転換、④良好な生活環境の保全

※宮津市環境基本計画：<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/5/11544.html>

※宮津市S D G s 未来都市計画：<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/uploaded/attachment/9296.pdf>

4.マッチングに期 待する内容

- 民間事業者がもつ資金力や人材を本市に投下いただき、地域脱炭素事業で自社の強みを発揮できるようなビジネスモデルを持ち合わせている多くの企業とネットワークを組み、G Xを推進したい。
- 本市の強みとして、地域資源の活用について、自治会等のコミュニティ組織が整備されており、面的な合意形成が進めやすいという面があります。
- 地域脱炭素事業が実施できる企業の提案を伺い、市内事業者との連携も視野に具体の施策を実施し、本市環境基本計画の推進を図ります。具体的取組はゼロベースで検討することになりますが、市内事業者や行政と連携した取組とするため、S D G s や地域創生を意識された事業者との出会いを求めます。
- 行政は計画づくりはしますが、事業化に向けたプレーヤーになることはできません。一緒に、脱炭素の取組を推進していただけるローカルシンクタンクが存在が必要です。エネルギーやごみの減量化・資源化などの地域課題と一緒に解決していただけるパートナーを求めています。

5.マッチングを望 む分野

- 官民地域連携での太陽光発電設備（P P A 事業やP VカーポートでのE Vシェアリング、営農型太陽光など）や太陽熱利用システム等を活用した事業（住宅・民間への普及を含む。）
- 木質バイオマスを活用したプロジェクト
- 森林資源や海洋資源に恵まれており、これを活かしたカーボンオフセットやJ - クレジットの活用等
- 省エネルギー対策や環境教育のほか、小さなことでも、市民、事業者の協力を得て、行動変容できるような事業の導入・整備